弱視治療児支援グループ
あいぱっちくらぶ　発行
(C)2001

弱視治療児を担任することになった先生へ

あなたの生徒の１人、　　さんが、弱視であることが判明し、治療を受けることとなりました。

弱視は、視力の発達する２～３ヵ月の頃から３歳頃までの幼児期に、斜視や強度の屈折異常（遠視・近視・乱視）、白内障など目の病気があり、視力が育たなかったため、眼鏡をかけても正常な視力が出ない状態を指します。

治療の基本は、眼鏡の常用となります。眼鏡を常用することにより、網膜に鮮明な画像を写しだし、未発達であった視神経を発達させることが、一番の治療となるのです。しかし初めて眼鏡をかけることとなった子供達は、眼鏡をかけることに対して他の子供達がどう反応するかなどを心配し、慣れるまでは心身共にストレスがたまりやすい状態になります。特に初めて眼鏡をかけて登校する日に、先生がどのような態度をとって下さるかによって、子供の学校での眼鏡生活、ひいては弱視治療がうまくいくかいかないかが、ある程度決まってしまうと言っても、過言ではないでしょう。
先生方の、温かいご協力をお願いいたします。

１．説明して下さい！

どうして眼鏡をかけなければいけなくなったのか､弱視について他の生徒にわかりやすく説明してあげて下さい。子供は特に、他の生徒が眼鏡をしている自分をどう思うのかということを、非常に気にしています。他の生徒にからかわれることなく、堂々と眼鏡で過ごせるようになるかならないかが、今後の弱視治療が成功するかしないかの鍵となります。

２．治療に協力して下さい！

生徒の年齢が低い場合には、眼鏡の装着を嫌がることが多々あります。しかし、眼鏡を常用することが､弱視を治す唯一の治療なのです｡生徒が自分で勝手に眼鏡を外すことを､家庭での取り組み同様、決して許さないで下さい。（ただし、体育の時間などにおいて、眼鏡の装着が危険だと感じられた場合においては、先生の判断にお任せいたします。）
弱視治療は、短期間で終了することはほとんどなく、短くても数ヶ月、長ければ数年かけて、継続して行われます。どうか暖かい目で見守り、サポートして頂けますよう、お願いいたします。

このハンドアウトに関するご質問・お問い合わせは下記までお願いいたします。

弱視治療児支援グループ
あいぱっちくらぶ
URL http://www.eypatchclub.jp/
e-mail webmaster@eyepatchclub.jp